

Case 35-2010:

A 56-Year-Old Man with Cough, Hypoxemia, and Rash

(N Engl J Med 2010; 363(21):2046-54)

Problem list

乾性咳嗽

1 週間以上持続。会話が困難・胸痛を伴うなど重症感あり。安静時に改善、労作時・右側臥位で増悪。

皮疹

発赤・腫脹を伴い、胸部・両側腋窩に出現。入院時には両側の脇腹に軽度残るのみ。

その他インフルエンザ様症状

浮遊性めまい、筋肉痛、悪寒、発汗、疲労感、口腔内乾燥、食欲低下、倦怠感などを訴えている。

低酸素血症

入院時 SpO₂ 90% (room air)。労作時に呼吸困難を訴えている。

アリゾナ・ワイオミング州への旅行歴

馬・牛との濃厚な接触歴、および乗馬による粉塵吸入の可能性が考えられる。

左中・下肺野・右肺底に crackles、左に egophony

Egophony (患者が「イー」と発音すると「エー」と聴診される) は肺炎の診断に有用。

WBC ↑, ESR ↑

好酸球増多、IgE ↑

CXR で右肺優位に patchy opacities

胸部単純 CT で右上肺葉に浸潤影、両肺に patchy ground-glass opacities、結節影

右肺門、傍気管リンパ節腫脹